

令和2年度 区有施設整備アドバイザー意見聴取結果

学校施設の更新について

No.	アドバイザー意見	区の考え
1	将来の児童数生徒数の減少を見据え、学校が地域コミュニティの中心となり、かつ学校教育に相乗効果が出る複合化を進めていくべきである。	学校施設を更新する際には、積極的に周辺施設との複合化・多機能化を図っていく。なお、複合化・多機能化にあたっては、施設間の親和性や相乗効果などを多角的に検討していく。
2	複合化は、目的があつてこそ検討できるものである。その意味では、学校を地域コミュニティの中心とすることを目指す更新計画は適当ではないか。	地域と学校の連携強化や、地域コミュニティ活動の強化につながるような複合化・多機能化を目指していく。
3	学校と他施設とのつながり、相乗効果が出る複合化でないと意味がなくなってしまう。学校と地域のつながりをどこまで重視するかは自治体の決断であるが、ハコモノ同士を合築するだけの複合化は避けるべきである。	ご意見の趣旨を踏まえ、検討を進めていく。
4	体育館や特別教室の施設管理に民間活力を活用し、教員の施設管理に係る負担を軽減している自治体もある。これにより、特別教室や体育館を地域にも開放しやすくなっているため、今後の設計標準の検討の際に参考にしてはどうか。	ご意見の趣旨を踏まえ、検討を進めていく。
5	I C T技術でオンライン化などが進むと、社会に必要な機能について考え直すことが必要で、そのなかで施設に求められる役割を考えていかなければならない。これまでと同じ機能でただ空間を大きくつくることには疑問がある。	設計標準を作成していく際には、ご意見を踏まえて検討を進めていく。
6	コロナ禍を踏まえ、オープンスペースやフレキシブルな空間づくりなど、今後の多様な使われ方に柔軟に対応できるような設計が求められるのではないかと。	設計標準を作成していく際には、ご意見を踏まえて検討を進めていく。
7	地域とのつながり、開かれた学校づくりは必要である。一方、複合できる施設などは地域性によるところもあるので、つながりや開かれ方の程度は関係者と十分に調整すべきである。	計画を進めていくに際して、地域とのつながりを大切にしながら、子供たちの安全を確保する方法を模索していく。

No.	アドバイザー意見	区の考え
8	<p>公民連携の事例として、学校と併設された公共施設の管理を民間に任せている自治体があり、教員の負担軽減に大きく寄与している。複合化にあたっては、建物を計画するのと同時に、管理方法を検討していくことが重要で、学校の負担が増加することなく教育に力を注ぐことのできる仕組みづくりが大切である。</p>	<p>学校を設計していく際には、ご意見の趣旨を踏まえ、現場の意見を聞きながら検討を進めていく。</p>
9	<p>民間活力の活用は、民間としてメリットが出ないと難しい面がある。1校1校での導入よりも、今後一斉に学校更新を進めていく上での発注方法の工夫など、多面的に検討する必要がある。</p>	<p>他自治体の事例を参考にしながら、どのような手法が可能なのか検証していく。</p>
10	<p>学校のプールについては、学校にプールを設置せずに民間のスイミングスクールを活用する自治体や、学校にプールを設置して積極的に地域に開放し、地域の方で子どもたちを泳げるようにする自治体もあるなど様々である。更新計画（素案）に記載されている学校プールの共用化は進めるべきと考えるが、地域性を考慮し、地域によりメリハリある考え方を取り入れることも考えられる。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、検討を進めていく。</p>
11	<p>設計標準について、標準的なスペックをおさえながらも、今後の教員の働き方なども踏まえた職員室のづくりなども検討してはどうか。また、教室数についても、想定児童生徒数に応じたものを基本としながら、将来の様々な事情に柔軟に対応できる空間づくりを検討するべきである。</p>	<p>設計標準を作成していく際には、ご意見を踏まえて検討をすすめていく。</p>
12	<p>設計標準は、今後の学校の使われ方も含めた大きな考え方を見据えながら検討していくことが望ましい。</p>	<p>設計標準を作成していく際には、ご意見を踏まえて検討をすすめていく。</p>